防火設備の定期検査報告における検査及び定期点検における点検の項目、事項、方法及び結果の 判定基準並びに検査結果表を定める件

発令 : 平成28年5月2日号外国土交通省告示第723号

最終改正:令和7年1月29日号外国土交通省告示第53号

改正内容:令和7年1月29日号外国土交通省告示第53号[令和7年7月1日]

○防火設備の定期検査報告における検査及び定期点検における点検の項目、事項、方法及び 結果の判定基準並びに検査結果表を定める件

[平成二十八年五月二日号外国土交通省告示第七百二十三号]

建築基準法施行規則(昭和二十五年建設省令第四十号)第六条第二項及び第三項並びに第六条の二第一項の規定に基づき、この告示を制定する。

防火設備の定期検査報告における検査及び定期点検における点検の項目、事項、方法及び 結果の判定基準並びに検査結果表を定める件

建築基準法施行規則(昭和二十五年建設省令第四十号。以下「施行規則」という。)第六条第一項から第三項まで並びに第六条の二第一項及び第二項の規定に基づき、防火設備について建築基準法(昭和二十五年法律第二百一号。以下「法」という。)第十二条第三項に規定する検査及び同条第四項に規定する点検(以下「定期検査等」という。)の項目、事項、方法及び結果の判定基準並びに検査結果表を次のように定める。

- 第一 施行規則第六条第一項の国土交通大臣が定める検査の項目並びに施行規則第六条の二第一項及び第二項の国土交通大臣が定める点検の項目のうち、防火設備に係るものは、別表第一(い) 欄に掲げる検査項目のうち(一)から(五)まで(常時閉鎖した状態にある防火扉(以下「常閉防火扉」という。)に係るものに限る。)とする。
- 第二 施行規則第六条第二項の検査及び施行規則第六条の二第一項の点検の項目、事項、方法及び結果の判定基準のうち、防火扉、防火シャッター、耐火クロススクリーン及びドレンチャーその他の水幕を形成する防火設備(平成二十年国土交通省告示第二百八十二号第四第二号に掲げる建築物にあっては、建築基準法施行令(昭和二十五年政令第三百三十八号。以下「令」という。)第百十二条第十一項に規定する防火区画を構成するものに限る。)に係るものは、次の各号に掲げる防火設備の種類に応じ、当該各号に定めるとおりとする。
  - 一 防火扉 別表第一(い)欄に掲げる検査項目に応じ、同表(ろ)欄に掲げる検査事項(法第十 二条第四項の規定による点検を要する防火扉にあっては、損傷、腐食その他の劣化の状況に係るものに限る。)について、同表(は)欄に掲げる検査方法により実施し、その結果が同表(に)欄に掲げる判定基準に該当しているかどうかを判定すること。
  - 二 防火シャッター 別表第二(い)欄に掲げる検査項目に応じ、同表(ろ)欄に掲げる検査事項

(法第十二条第四項の規定による点検を要する防火シャッターにあっては、損傷、腐食その他の劣化の状況に係るものに限る。)について、同表(は)欄に掲げる検査方法により実施し、その結果が同表(に)欄に掲げる判定基準に該当しているかどうかを判定すること。

- 三 耐火クロススクリーン 別表第三(い)欄に掲げる検査項目に応じ、同表(ろ)欄に掲げる検査事項(法第十二条第四項の規定による点検を要する耐火クロススクリーンにあっては、損傷、腐食その他の劣化の状況に係るものに限る。)について、同表(は)欄に掲げる検査方法により実施し、その結果が同表(に)欄に掲げる判定基準に該当しているかどうかを判定すること。
- 四 ドレンチャーその他の水幕を形成する防火設備(以下「ドレンチャー等」という。) 別 表第四(い)欄に掲げる検査項目に応じ、同表(ろ)欄に掲げる検査事項(法第十二条第四項の 規定による点検を要するドレンチャー等にあっては、損傷、腐食その他の劣化の状況に係る ものに限る。)について、同表(は)欄に掲げる検査方法により実施し、その結果が同表(に) 欄に掲げる判定基準に該当しているかどうかを判定すること。
- 2 特定行政庁は、前項に規定する定期検査等の項目、事項、方法及び結果の判定基準について、 規則で、必要なものを付加することができる。
- 3 法第六十八条の二十五第一項又は法第六十八条の二十六第一項に規定する認定を受けた構造 方法を用いた防火設備に係る定期検査等については、当該認定に当たって検査又は点検の項目、 事項、方法又は結果の判定基準(以下この項において「認定検査項目等」という。)が定めら れている場合においては、前三項の規定にかかわらず、当該認定検査項目等によるものとする。
- 第三 施行規則第六条第三項の国土交通大臣が定める検査結果表のうち、防火設備に係るものは、 次の各号に掲げる防火設備の種類に応じ、当該各号に定めるとおりとする。
  - 一 防火扉 別記第一号
  - 二 防火シャッター 別記第二号
  - 三 耐火クロススクリーン 別記第三号
  - 四 ドレンチャー等 別記第四号

附則

この告示は、平成二十八年六月一日から施行する。

附 則〔令和元年六月二一日国土交通省告示第二○○号〕

この告示は、建築基準法の一部を改正する法律〔平成三〇年六月法律第六七号〕の施行の日(令和元年六月二十五日)から施行する。

附 則〔令和二年四月一日国土交通省告示第五○八号〕

この告示は、建築基準法施行令の一部を改正する政令〔令和元年一二月政令第一八一号〕の施 行の日(令和二年四月一日)から施行する。 附 則〔令和五年三月二〇日国土交通省告示第二〇七号抄〕 (施行期日)

1 この告示は、建築基準法施行令の一部を改正する政令〔令和五年二月政令第三四号〕の施行の日(令和五年四月一日)から施行する。

附 則〔令和六年六月二八日国土交通省告示第九七四号〕

この告示は、令和七年七月一日から施行する。

附 則〔令和七年一月二九日国土交通省告示第五三号〕

この告示は、令和七年七月一日から施行する。

## 別表第一

	1	1	1	
	(い)検査項目	(ろ)検査事項	(は)検査方法	(に)判定基準
()	防火扉	閉鎖又は作動の障	目視又はこれに類	物品が放置されて
		害となる物品の放	する方法(以下「目	いること等により
		置並びに照明器具	視等」という。)に	防火扉の閉鎖又は
		及び懸垂物等の状	より確認する。	作動に支障がある
		況		こと。
( <u></u> )		扉の取付けの状況	目視等又は触診に	取付けが堅固でな
			より確認する。	いこと。
(三)		扉、枠及び金物の劣	目視等により確認	変形、損傷又は著し
		化及び損傷の状況	する。	い腐食により遮炎
				性能又は遮煙性能
				に支障があること。
(四)	常時閉鎖した状	固定の状況	目視等により確認	常閉防火扉が開放
	態にある防火扉		する。	状態に固定されて
	(以下「常閉防			いること。
	火扉」という。)			
(五)	人の通行の用に	作動の状況	扉の閉鎖時間をス	昭和四十八年建設
	供する部分に設		トップウォッチ等	省告示第二千五百
	ける防火扉		により測定し、扉の	六十三号第一第一
			質量により運動エ	号又は第二号イの
			ネルギーを確認す	規定に適合しない
			るとともに、必要に	こと。
			応じてプッシュプ	
			ルゲージ等により	

	1		1		
				閉鎖力を測定する。	
				ただし、各階の主要	
				な常閉防火扉につ	
				いて、三年以内に実	
				施した点検の記録	
				がある場合にあっ	
				ては、当該記録によ	
				り確認することを	
				もって足りる。	
(六)	連動機構	煙感知器、熱煙	設置位置	目視等により確認	煙感知器又は熱煙
		複合式感知器及		するとともに、必要	複合式感知器にあ
		び熱感知器		に応じて鋼製巻尺	っては昭和四十八
				等により測定する。	年建設省告示第二
					千五百六十三号第
					一第二号ニ(2)に
					掲げる場所に設け
					ていないこと。熱感
					知器にあっては昭
					和四十八年建設省
					告示第二千五百六
					十三号第一第二号
					ニ(2)(i)及び(i
					i)に掲げる場所に
					設けていないこと。
(七)			感知の状況	(十七)の項又は(十	適正な時間内に感
				八)の項の点検が行	知しないこと。
				われるもの以外の	
				ものを対象として、	
				加煙試験器、加熱試	
				験器等により感知	
				の状況を確認する。	
				ただし、前回の検査	
				以降に同等の方法	

	l l		T	T
			で実施した検査の	
			記録がある場合に	
			あっては、当該記録	
			により確認するこ	
			とで足りる。	
(八)	温度ヒューズ装	設置の状況	目視等により確認	温度ヒューズの代
	置		する。	わりに針金等で固
				定されていること、
				変形、損傷若しくは
				著しい腐食がある
				こと又は油脂、埃、
				塗料等の付着があ
				ること。
(九)	連動制御器	スイッチ類及び表	目視等により確認	スイッチ類に破損
		示灯の状況	する。	があること又は表
				示灯が点灯しない
				こと。
(十)		結線接続の状況	目視等又は触診に	断線、端子の緩み、
			より確認する。	脱落又は損傷等が
				あること。
(+)		接地の状況	回路計、ドライバー	接地線が接地端子
			等により確認する。	に緊結されていな
				いこと。
(十二)		予備電源への切り	常用電源を遮断し、	自動的に予備電源
		替えの状況	作動の状況を確認	に切り替わらない
			する。	こと。
(十三)	連動機構用予備	劣化及び損傷の状	目視等により確認	変形、損傷又は著し
	電源	況	する。	い腐食があること。
(十四)		容量の状況	予備電源試験スイ	容量が不足してい
			ッチ等を操作し、目	ること。
			視等により確認す	
			る。	

(十五)	自動閉鎖装置	設置の状況	目視等又は触診に	取付けが堅固でな
			より確認する。	いこと又は変形、損
				傷若しくは著しい
				腐食があること。
(十六)		再ロック防止機構	閉鎖した防火扉を、	防火扉が自動的に
		の作動の状況	連動制御器による	再閉鎖しないこと。
			復旧操作をしない	
			状態で閉鎖前の位	
			置に戻すことによ	
			り、作動の状況を確	
			認する。	
(十七)	総合的な作動の状況	防火扉(常閉防火扉	煙感知器、熱煙複合	防火扉が正常に閉
		を除く。)の閉鎖の	式感知器若しくは	鎖しないこと又は
		状況	熱感知器を作動さ	連動制御器の表示
			せ、又は温度ヒュー	灯が点灯しないこ
			ズを外し、全ての防	と若しくは音響装
			火扉(常閉防火扉及	置が鳴動しないこ
			び(十八)の項の点	と。
			検が行われるもの	
			を除く。以下この	
			(十七)の項におい	
			て同じ。)の作動の	
			状況を確認する。た	
			だし、連動機構用予	
			備電源ごとに、少な	
			くとも一以上の防	
			火扉について、予備	
			電源に切り替えた	
			状態で作動の状況	
			を確認する。	
(十八)		防火区画(令第百十	当該区画のうちー	防火扉が正常に閉
		二条第十一項から	以上を対象として、	鎖しないこと、連動
		第十三項までの規	煙感知器又は熱煙	制御器の表示灯が

定による区画に限 複合式感知器を作 正常に点灯しないる。)の形成の状況動させ、複数の防火 こと若しくは音響 扉(常閉防火扉を除装置が鳴動しないく。以下この(十八) こと又は防火区画 の項において同 が適切に形成され じ。)の作動の状況 ないこと。 及びその作動による防火区画の形成 の状況を確認する。

平成二十年国土交通省告示第二百八十二号第二の規定により特定行政庁が各階の主要な常閉防 火扉に係る(一)から(五)までの項目、方法及び結果の判定基準(以下この表において「項目等」 という。)に相当する項目等を付加した場合にあっては、各階の主要な常閉防火扉(同告示第二 後段の規定により特定行政庁が建築物を指定した場合にあっては、当該建築物に設けるものに限 る。)については、(一)から(五)までの項目に係る定期検査等を行うことを要しない。

## 別表第二

	(い)検査	項目	(ろ)検査事項	(は)検査方法	(に)判定基準
()	防火シャ	設置場所の周囲	閉鎖の障害となる	目視等により確認	物品が放置されて
	ッター	状況	物品の放置並びに	する。	いること等により
			照明器具及び懸垂		防火シャッターの
			物等の状況		閉鎖に支障がある
					こと。
( <u></u> )		駆動装置((二)	軸受け部のブラケ	目視等、聴診又は触	取付けが堅固でな
		の項から(四)の	ット、巻取りシャフ	診により確認する。	いこと。
		項までの点検に	ト及び開閉機の取		
		ついては、日常	付けの状況		
		的に開閉するも			
		のに限る。)			
(三)			スプロケットの設	目視等により確認	巻取りシャフトと
			置の状況	する。	開閉機のスプロケ
					ットに心ずれがあ
					ること。
(四)			軸受け部のブラケ	目視等、聴診又は触	変形、損傷、著しい
			ット、ベアリング及	診により確認する。	腐食、異常音又は異

(五) ボスプロケット又 はローブ車の劣化 及び損傷の状況 ローラチェーンス は関等、聴診又は触腐食があること、異はワイヤローブの 診により確認する。常音があること者 しくは歯飛びして いること、又はたる み若しくは固著が あること。 (人) カーテン部 スラット及び座板 防火シャッターを スラット若しくは 固着があること スコットを しくは著しい 縮食 があること スはスラットに 片流れ者 しくは 国生があること スはスラットに 片流れ者 しくは 固定があること スは 現傷並びに 固定の より確認する。 若しい 腐食があるること スは 現傷並びに固定の より確認する。 若しい 腐食があるること スは 別でないこと。 などと及びガイ 家化及び損傷の状 目視等により確認 まできましくはガスル する。 こと、 は著しい 高食があること スは 選問でないこと。 などと及びガイ 家化及び損傷の状 目視等により確認 まできましくは ボールの本体 に変形、損傷者しく は著しい 高食があること スは 選問でないこと。 などと及びガイ 家化及び損傷の状 日視等により確認 まできましくは ボールの本体 に変形、損傷者しく は までして 現傷者 しく は 発しい 現傷者 しく は 発しい 損傷者 しく は 脱落 が あること。 たと 現 の 近 で が あること。 な たい 損傷 な しい 損傷者 しく は 脱落 が あること。 な たい 損傷 な しい 損傷者 しく は 発しい 損傷者 しく は 発しい 高食 が あること。 な たい 損傷 な しい 過度 が あること。 な たい 損傷 な しい 損傷者 しく は 発しい 損傷者 しく は 発しい 弱食 が あること。 な たい 損傷者 しく は 発しい 弱食 が あること ここと な たい 損傷者 しく は 発しい 弱食 が あること ここと な しい 損傷者 しく は 発しい 弱食 が あること ここと な しい 損傷者 しく は 関係する こと な れ 損傷者 しく は 発しい 弱食 が あること ここと な しい 最近 が あること ここと な しい 損傷者 しく は 表しい 弱食 が あること ここと な しい 最近 な しい は 最近 が あること ここと な しい 最近 な は しい 最近 な は しい 最近 な な しい 最近 な は しい 高 な な は しい 最近 な は しい る な は しい 最近 な は しい る な は は な は な は な は な は な は な は な は な は				T	1
(五)			びスプロケット又		常な振動があるこ
(五)			はロープ車の劣化		と。
はワイヤローブの   参により確認する。常音があること若   しくは歯飛びして   いること、又はたる   み若しくは固着が   あること。   カーテン部   スラット及び座板   防火シャッターを   スラット若しくは   密板に変形、損傷者   しくは著しい腐食があること又はスラットに片流れ若   しくは菌があること又は   五り元の劣化及び   自視等により確認   変形、損傷者しくは   著しい腐食があること。   「小)   ケース   安化及び損傷の状   自視等により確認   方。   こと又は固定ボルトの締め付けが堅   固でないこと。   ケース   安化及び損傷の状   自視等により確認   まぐさ若しくはガ   ガトレール   況   力。   えできなしい腐食があること   スに外れがあること   スに外れがあること。   まぐさ及びガイ   大レール   次   大し、損傷者しくは   大し、損傷者しくは   大し、原食があること   大し、原食があること   大し、原食があること   大し、原食があること   大し、原食があること   大し、原食があること   大し、原食があること   大し、原食があること   大し、原食があること。   危害防止装置   危害防止用連動中   自視等により確認   大し、損傷又は脱落			及び損傷の状況		
(六) カーテン部 スラット及び座板 防火シャッターを み ラット者しくは 固着が あること。 次ラット者しくは 関鎖し、目視等によ 座板に変形、損傷者 しくは 著しい腐食 があること 又はれ ラットに 川流れ若 しくは固着があること。	(五)		ローラチェーン又	目視等、聴診又は触	腐食があること、異
(六)			はワイヤロープの	診により確認する。	常音があること若
(六)         カーテン部         スラット及び座板 防火シャッターを スラット若しくは 座板に変形、損傷者 しくは著しい腐食 があること又はスラットに片流れ若 しくは固着がある こと。           (七)         吊り元の劣化及び 損傷を並びに固定の 状況         目視等又は触診に 変形、損傷者しくは 著しい腐食があることと又は固定ボルトの締め付けが堅固でないこと。           (八)         ケース 劣化及び損傷の状 別 する。 こと でき及びガイ 労化及び損傷の状 する。 こと できる及びガイ 労化及び損傷の状 する。 こと に変形、損傷者しくは 著しいの本体に変形、損傷者しくは 強者しいの本体に変形、損傷者しく は 著しいの本体に変形、損傷者しく は 著しい 損傷者 しくは 表しい 損傷者 しくは 表しい 損傷者 しく は まぐさ者 しく は また した また した また した また した は また した は また した また した は また また した は また また した は また また した は また また した は また また した は また また また また した は また			劣化及び損傷の状		しくは歯飛びして
(六) カーテン部 スラット及び座板 防火シャッターを スラット若しくは の劣化等の状況 閉鎖し、目視等によ 座板に変形、損傷者しくは固着があること又はスラットに片流れ者しくは固着があること。 吊り元の劣化及び 損傷並びに固定の 状況 目視等又は触診に 変形、損傷者しくは 者しい腐食があること又は固定ボルトの締め付けが堅固でないこと。 ケース 劣化及び損傷の状 目視等により確認 ケースに外れがあっこと。 (ハ) まぐさ及びガイ 労化及び損傷の状 日視等により確認 ケースに外れがあっこと。 (ハ) アース 劣化及び損傷の状 は できましくはガイドレール 況 する。 イドレールの本体に変形、損傷者しくは 注着しい腐食があること又は 連煙材に 著しい 損傷者しくは は 強いの本体に変形、損傷者しくは は 強いの本体に変形、損傷者しくは は 強いの本体に 変形、損傷者しくは は 強いの表して は 強に 変形、損傷者とくは は 強に な は に 変形、損傷者とくは は 強に な は に 変形、損傷者とくは は 強に な は に 変形、損傷者とく は は に 変形、損傷者とく は は に 変形、損傷者とく は は に 変形、損傷者とく は は に 変形、損傷者としく は は に 変形、損傷者としく は は に 変形、損傷者としく は は に 変形、損傷者とい 損傷者とい 損傷者と く は に 変形、損傷者としく は に 変形、損傷者としく は に 変形、損傷者と く は に 変形、損傷者としく は に 変形、損傷者としく は に 変形、損傷者としく は に 変形、損傷者として は に 変形、損傷者と に 変形 は に な に 変形 は に が に 変形 は に な に 変形 は に が に が に が に が に が に 変形 は に が に 変形 は に な に 変形 は に が に 変形 は に が に が に が に が に が に が に が に が に が に			況		いること、又はたる
(六)         カーテン部         スラット及び座板 の劣化等の状況 閉鎖し、目視等によ 座板に変形、損傷者しくは著しい腐食があること又はスラットに片流れ若しくは固着があること。           (七)         吊り元の劣化及び 損傷並びに固定の 状況 目視等又は触診に 変形、損傷者しくはより確認する。 苦しい腐食があることと又は固定ボルトの締め付けが堅固でないこと。           (八)         ケース 劣化及び損傷の状 月視等により確認 する。 こととに外れがあること。           (九)         まぐさ及びガイ 労化及び損傷の状 月視等により確認 まぐさ若しくはガドレール 況 する。           (九)         まぐさ及びガイ 労化及び損傷の状 日視等により確認 まぐさ若しくはガイドレールの本体に変形、損傷若しくは著しい腐食があること又は遮煙材に著しい損傷若しくは関係があることとは脱落があること、は関係者とくは関係があることと、           (十)         危害防止共運動中 日視等により確認 劣化、損傷又は脱落					み若しくは固着が
(七) の劣化等の状況 閉鎖し、目視等によ、座板に変形、損傷若しくは著しい腐食があること又はスラットに片流れ若しくは固着があること。					あること。
(七) おり元の劣化及び 目視等又は触診に 変形、損傷若しくは 損傷並びに固定の より確認する。 とこと でい腐食があること又は固定がしたの締め付けが堅 固でないこと。 とことのはのがいること。 まぐさ及びガイ 労化及び損傷の状 目視等により確認 する。 ことと。 まぐさ及びガイ 労化及び損傷の状 目視等により確認 まぐさ若しくはガイドレール 況 する。 こと又は遮煙材に変形、損傷若しくは著しい腐食があること又は遮煙材に著しい損傷若しくは脱落があること又は遮煙材に著しい損傷者しくは脱落があることと。 たき防止装置 危害防止用連動中 目視等により確認 劣化、損傷又は脱落	(六)	カーテン部	スラット及び座板	防火シャッターを	スラット若しくは
(七) おり元の劣化及び 目視等又は触診に 変形、損傷者しくは 損傷並びに固定の より確認する。 こと又は固定ボルトの締め付けが堅 固でないこと。  (八) ケース 劣化及び損傷の状 月視等により確認 ケースに外れがあってとと。  (八) まぐさ及びガイ 劣化及び損傷の状 日視等により確認 まぐさ若しくはガイドレール 況 する。 まぐさ若しくはガイをして変形、損傷者しくは著しい腐食があること又は遮煙材に著しい損傷者しくは脱落があること。 (八) た害防止装置 危害防止用連動中 目視等により確認 劣化、損傷又は脱落			の劣化等の状況	閉鎖し、目視等によ	座板に変形、損傷若
(七)       用り元の劣化及び 目視等又は触診に 変形、損傷者しくは 損傷並びに固定の 状況 とり確認する。 さと又は固定ボルトの締め付けが堅 固でないこと。         (八)       ケース 劣化及び損傷の状 りつん さんとの まぐさ及びガイ 労化及び損傷の状 りつん する。 まぐさ若しくはガイドレール 況 する。 こと又は遮煙材に著しい腐食があること又は遮煙材に著しい腐食があること又は遮煙材に著しい損傷若しくは脱落があること。         (十)       危害防止装置 危害防止用連動中 目視等により確認 労化、損傷又は脱落				り確認する。	しくは著しい腐食
(七)       用り元の劣化及び 目視等又は触診に 変形、損傷若しくは 損傷並びに固定の 状況       素しい腐食があること又は固定ボルトの締め付けが堅 固でないこと。         (八)       ケース 劣化及び損傷の状 況 する。       目視等により確認 ケースに外れがあっること。         (九)       まぐさ及びガイ 劣化及び損傷の状 けレール 況 する。       目視等により確認 する。 イドレールの本体に変形、損傷若しくは著しい腐食があること又は遮煙材に著しい損傷若しくは脱落があることと。         (十)       危害防止装置 危害防止用連動中 目視等により確認 劣化、損傷又は脱落					があること又はス
(七)					ラットに片流れ若
(七) 吊り元の劣化及び 目視等又は触診に 変形、損傷若しくは 損傷並びに固定の より確認する。 著しい腐食がある こと又は固定ボルトの締め付けが堅 固でないこと。 ケース 劣化及び損傷の状 目視等により確認 ケースに外れがあってと。 まぐさ及びガイ 労化及び損傷の状 目視等により確認 まぐさ若しくはガ ドレール 況 する。 イドレールの本体 に変形、損傷若しく は著しい腐食があること又は遮煙材 に著しい損傷若しくは脱落があること。 (十) 危害防止装置 危害防止用連動中 目視等により確認 劣化、損傷又は脱落					しくは固着がある
損傷並びに固定の より確認する。 著しい腐食があること又は固定ボルトの締め付けが堅固でないこと。   (八)					こと。
(八)	(七)		吊り元の劣化及び	目視等又は触診に	変形、損傷若しくは
(八)       ケース       劣化及び損傷の状 目視等により確認 ケースに外れがあっること。         (九)       まぐさ及びガイ 劣化及び損傷の状 ドレール 況 する。       目視等により確認 まぐさ若しくはガイドレールの本体に変形、損傷若しくは著しい腐食があること又は遮煙材に著しい損傷若しくは脱落があること、は脱落があること。         (十)       危害防止装置 危害防止用連動中 目視等により確認 劣化、損傷又は脱落			損傷並びに固定の	より確認する。	著しい腐食がある
(八) タース			状況		こと又は固定ボル
(八)         ケース         劣化及び損傷の状 する。         目視等により確認 まぐさ若しくはガイドレール         まぐさ及びガイ 労化及び損傷の状 目視等により確認 まぐさ若しくはガイドレールの本体 に変形、損傷若しくは著しい腐食があること又は遮煙材に著しい損傷若しくは脱落があること。           (十)         危害防止装置 危害防止用連動中 目視等により確認 劣化、損傷又は脱落					トの締め付けが堅
(九) まぐさ及びガイ 劣化及び損傷の状 目視等により確認 まぐさ若しくはガイドレール 況 する。 イドレールの本体に変形、損傷若しくは著しい腐食があること又は遮煙材に著しい損傷若しくは脱落があること。 (十) 危害防止装置 危害防止用連動中 目視等により確認 劣化、損傷又は脱落					固でないこと。
(九) まぐさ及びガイ 劣化及び損傷の状 目視等により確認 まぐさ若しくはガドレール 況 する。 イドレールの本体に変形、損傷若しくは著しい腐食があること又は遮煙材に著しい損傷若しくは脱落があること。 た害防止装置 危害防止用連動中 目視等により確認 劣化、損傷又は脱落	(八)	ケース	劣化及び損傷の状	目視等により確認	ケースに外れがあ
ドレール   沢   する。			況	する。	ること。
に変形、損傷若しくは著しい腐食があること又は遮煙材に著しい損傷若しくは脱落があることは脱落があることに関係者しくは脱落があること。 (十) た害防止装置 た害防止用連動中 目視等により確認 劣化、損傷又は脱落	(九)	まぐさ及びガイ	劣化及び損傷の状	目視等により確認	まぐさ若しくはガ
(十) は著しい腐食があること又は遮煙材に著しい損傷若しくは脱落があること。 を害防止装置 危害防止用連動中 目視等により確認 劣化、損傷又は脱落		ドレール	況	する。	イドレールの本体
(十) を書防止装置 を書防止用連動中 目視等により確認 劣化、損傷又は脱落					に変形、損傷若しく
(十) に著しい損傷若しくは脱落があること。 (十) た害防止装置 を害防止用連動中 目視等により確認 劣化、損傷又は脱落					は著しい腐食があ
(十)       た書防止装置       た書防止用連動中       目視等により確認       劣化、損傷又は脱落					ること又は遮煙材
(十)     た書防止装置     危害防止用連動中     目視等により確認     劣化、損傷又は脱落					に著しい損傷若し
(十) 危害防止装置 危害防止用連動中 目視等により確認 劣化、損傷又は脱落					くは脱落があるこ
					と。
(人の通行の用継器の配線の状況 する。 があること。	(十)	危害防止装置	危害防止用連動中	目視等により確認	劣化、損傷又は脱落
		(人の通行の用	継器の配線の状況	する。	があること。

	に供する部分に			
	設ける防火シャ			
	ッターに係るも			
	のに限る。)			
(+)			目視等により確認	変形、損傷又は著し
		備電源の劣化及び	する。	い腐食があること。
		損傷の状況		
(十二)		危害防止装置用予	予備電源試験スイ	容量が不足してい
		備電源の容量の状	ッチ等を操作し、目	ること。
		況	視等により確認す	
			る。	
(十三)		座板感知部の劣化	目視等により確認	変形、損傷若しくは
		及び損傷並びに作	するとともに、座板	著しい腐食がある
		動の状況	感知部を作動させ、	こと又は防火シャ
			防火シャッターの	ッターの降下が停
			降下が停止するこ	止しないこと。
			とを確認する。	
(十四)		作動の状況	防火シャッターの	運動エネルギーが
			閉鎖時間をストッ	十ジュールを超え
			プウォッチ等によ	ること、座板感知部
			り測定し、シャッタ	が作動してからの
			ーカーテンの質量	停止距離が五セン
			により運動エネル	チメートルを超え
			ギーを確認すると	ること又は防火シ
			ともに、座板感知部	ャッターが再降下
			の作動により防火	しないこと。
			シャッターの降下	
			を停止させ、その停	
			止距離を鋼製巻尺	
			等により測定する。	
			また、その作動を解	
			除し、防火シャッタ	
			ーが再降下するこ	

				とを確認する。	
(十五)	連動機構	煙感知器、熱煙	設置位置	目視等により確認	煙感知器又は熱煙
		複合式感知器及		するとともに、必要	複合式感知器にあ
		び熱感知器		に応じて鋼製巻尺	っては昭和四十八
				等により測定する。	年建設省告示第二
					千五百六十三号第
					一第二号ニ(2)に
					掲げる場所に設け
					ていないこと。熱感
					知器にあっては昭
					和四十八年建設省
					告示第二千五百六
					十三号第一第二号
					ニ(2)(i)及び(i
					i)に掲げる場所に
					設けていないこと。
(十六)			感知の状況	(二十六)の項又は	適正な時間内に感
				(二十七)の項の点	知しないこと。
				検が行われるもの	
				以外のものを対象	
				として、加煙試験	
				器、加熱試験器等に	
				より感知の状況を	
				確認する。ただし、	
				前回の検査以降に	
				同等の方法で実施	
				した検査の記録が	
				ある場合にあって	
				は、当該記録により	
				確認することで足	
				りる。	
(十七)		温度ヒューズ装	 設置の状況	目視等により確認	温度ヒューズの代
		置		する。	わりに針金等で固

					定されていること、
					変形、損傷若しくは
					著しい腐食がある
					こと又は油脂、埃、
					塗料等の付着があ
					ること。
(十八)	•	連動制御器	スイッチ類及び表	目視等により確認	スイッチ類に破損
			示灯の状況	する。	があること又は表
					示灯が点灯しない
					こと。
(十九)			結線接続の状況	目視等又は触診に	断線、端子の緩み、
				より確認する。	脱落又は損傷等が
					あること。
(二十)			接地の状況	回路計、ドライバー	接地線が接地端子
				等により確認する。	に緊結されていな
					いこと。
( <u>_</u> +-)			予備電源への切り	常用電源を遮断し、	自動的に予備電源
			替えの状況	作動の状況を確認	に切り替わらない
				する。	こと。
(二十二)	j	連動機構用予備	劣化及び損傷の状	目視等により確認	変形、損傷又は著し
	ا	電源	況	する。	い腐食があること。
(二十三)			容量の状況	予備電源試験スイ	容量が不足してい
				ッチ等を操作し、目	ること。
				視等により確認す	
				る。	
(二十四)		自動閉鎖装置	設置の状況	目視等又は触診に	取付けが堅固でな
				より確認する。	いこと又は変形、損
					傷若しくは著しい
					腐食があること。
(二十五)		手動閉鎖装置	設置の状況	目視等により確認	速やかに作動させ
				するとともに、必要	ることができる位
				に応じて鋼製巻尺	置に設置されてい
			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		

閉鎖の状況  式感知器若しくは 熱感知器を作動さ こと又は連動制御 せ、又は温度ヒュー器の表示灯が点灯 ズを外し、全ての防しないこと若しく 火シャッター((二は音響装置が鳴動 十七)の項の点検がしないこと。 行われるものを除 く。)の作動の状況 を確認する。ただ し、連動機構用予備 電源ごとに、少なく とも一以上の防火 シャッターについ て、予備電源に切り 替えた状態で作動 の状況を確認する。		i i		Т	Т	
できないこと、変形、損傷者しくは著しい腐食があること又は打ち破り窓のプレートが脱落していること。 (二十六) 総合的な作動の状況 防火シャッターの 煙感知器、熱煙複合防火シャッターが 正常に閉鎖しない 悪感知器を作動さ こと又は連動制御 せ、又は温度ヒュー 器の表示灯が点灯 ズを外し、全ての防しないこと若しく 火シャッター ((二 は音響装置が鳴動 十七)の項の点検がしないこと。 (つかれるものを除く。)の作動の状況を確認する。ただし、連動機構用予備電源ごとに、少なくとも一以上の防火シャッターについて、予備電源に切り替えた状態で作動 の状況を確認する。 が大区画(令第百十二条第十一項から 原十三項までの規 煙感知器又は熱煙 こと、運動制御器の 定による区画に限 複合式感知器を作 表示灯が点灯しなる。)の形成の状況 動きせ、複数の防火いこと若しくは音					等により測定する。	ないこと、周囲に障
形、損傷者しくは著しい腐食があること又は打ち破り窓のプレートが脱落していること。  (二十六) 総合的な作動の状況 防火シャッターの 煙感知器、熱煙複合 防火シャッターが 式感知器若しくは 正常に開鎖しない 悪感知器を作動さ こと又は連動制御 せ、又は温度ヒュー器の表示灯が点灯 ズを外し、全ての防しないこと若しく 大シャッター ((二は音響装置が鳴動十七)の項の点検が しないこと。 (行われるものを除く。)の作動の状況を確認する。ただし、連動機構用予備電源ごとに、少なくとも一以上の防火シャッターについて、予備電源に切り 替えた状態で作動の状況を確認する。  (二十七) 防火区画(令第百十 当該区画のうちー 防火シャッターが ス条第十一項から 以上を対象として、正常に閉鎖しない第十三項までの規 煙感知器又は熱煙 表示灯が点灯しなる。)の形成の状況 動きせ、複数の防火いこと若しくは音						害物があり操作が
に十六) 総合的な作動の状況 防火シャッターの 煙感知器、熱煙複合 防火シャッターが 対感の状況 対感知器者しては 正常に閉鎖しない 熟感知器を作動さ こと又は連動制御 世、又は温度ヒュー 器の表示灯が点灯 ズを外し、全ての防 しないこと者しく は音響装置が鳴動 十七)の項の点検が しないこと。 行われるものを除 く。)の作動の状況を確認する。ただし、連動機構用予備電源ごとに、少なくとも一以上の防火シャッターについ て、予備電源に切り 替えた状態で作動の状況を確認する。 防火シャッターについ て、予備電源に切り 替えた状態で作動の状況を確認する。 防火シャッターについ エーデー 電源 でとに、少なくとも一以上の防火シャッターが ストラー と、連動機構用を備電源でとに、少なくとも一以上の防火シャッターについ に、予備電源に切り を入れ、実際で作動の状況を確認する。 防火シャッターが 以上を対象として、正常に閉鎖しない 第十三項までの規 煙感知器又は熱煙 こと、連動制御器の 複合式感知器を作 表示灯が点灯しなる。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音						できないこと、変
と又は打ち破り窓のプレートが脱落していること。  防火シャッターの 開鎖の状況  防火シャッターの 開鎖の状況  対感知器を作動さ こと又は連動制御 せ、又は温度ヒュー 器の表示灯が点灯 ズを外し、全ての防しないこと者しく 火シャッター((二 十七)の項の点検が 行われるものを除 く。)の作動の状況 を確認する。ただ し、連動機構用予備 電源ごとに、少なく とも一以上の防火 シャッターについ て、予備電源に切り 替えた状態で作動 の状況を確認する。  防火区画(令第百十 当該区画のうちー 二条第十一項から 以上を対象として、正常に閉鎖しない こと、連動制御器の 複合式感知器を作 表示灯が点灯しな る。)の形成の状況 動させ、複数の防火いこと若しくは音						形、損傷若しくは著
(二十六) 総合的な作動の状況 防火シャッターの 煙感知器、熱煙複合 防火シャッターが						しい腐食があるこ
(二十六) 総合的な作動の状況 防火シャッターの 煙感知器、熟煙複合 防火シャッターが 閉鎖の状況 式感知器若しくは 正常に閉鎖しない 熟感知器を作動さ こと又は連動制御 せ、又は温度ヒュー器の表示灯が点灯 ズを外し、全ての防しないこと若しく 火シャッター ((二 大き 響装置が鳴動 十七)の項の点検が 行われるものを除 く。)の作動の状況を確認する。ただ し、連動機構用予備 電源ごとに、少なくとも一以上の防火シャッターについて、予備電源に切り 替えた状態で作動の状況を確認する。 防火区画(令第百十当該区画のうちー 防火シャッターが 二条第十一項から 以上を対象として、正常に閉鎖しない 第十三項までの規 煙感知器又は熱煙 こと、連動制御器の 定による区画に限 複合式感知器を作 表示灯が点灯しなる。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音						と又は打ち破り窓
(二十六) 総合的な作動の状況 防火シャッターの 煙感知器、熱煙複合 防火シャッターが 式感知器者しくは 正常に閉鎖しない 熱感知器を作動さ せ、又は温度ヒュー 器の表示灯が点灯 ズを外し、全ての防 しないこと者しく 火シャッター ((二 は音響装置が鳴動十七)の項の点検が しないこと。 行われるものを除く。)の作動の状況を確認する。ただし、連動機構用予備 電源ごとに、少なくとも一以上の防火シャッターについて、予備電源に切り 替えた状態で作動の状況を確認する。 防火区面(令第百十 当該区面のうちー 防火シャッターが 以上を対象として、 正常に閉鎖しない 第十三項までの規 煙感知器又は熱煙 こと、連動制御器の 複合式感知器を作 表示灯が点灯しな る。)の形成の状況 動させ、複数の防火 いこと者しくは音						のプレートが脱落
開鎖の状況 式感知器若しくは 正常に閉鎖しない 熱感知器を作動さ こと又は連動制御 せ、又は温度ヒュー器の表示灯が点灯 ズを外し、全ての防 しないこと若しく は音響装置が鳴動 十七)の項の点検が しないこと。 行われるものを除 く。)の作動の状況を確認する。ただ し、連動機構用予備 電源ごとに、少なくとも一以上の防火シャッターについて、予備電源に切り 替えた状態で作動の状況を確認する。 が況を確認する。 防火区画(令第百十 当該区画のうちー こ条第十一項から 以上を対象として、 正常に閉鎖しない 第十三項までの規 煙感知器又は熱煙 こと、連動制御器の 定による区画に限 複合式感知器を作 表示灯が点灯しなる。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音						していること。
熟感知器を作動さ せ、又は温度ヒュー器の表示灯が点灯 ズを外し、全ての防 大シャッター ((二 十七)の項の点検が 行われるものを除 く。)の作動の状況 を確認する。ただ し、連動機構用予備 電源ごとに、少なく とも一以上の防火 シャッターについ て、予備電源に切り 替えた状態で作動 の状況を確認する。 (二十七) 防火区画(令第百十当該区画のうちー 二条第十一項から 以上を対象として、正常に閉鎖しない 第十三項までの規 煙感知器又は熱煙 たと、連動制御器の 定による区画に限 複合式感知器を作 表示灯が点灯しな る。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音	(二十六)	総合的な作	作動の状況	防火シャッターの	煙感知器、熱煙複合	防火シャッターが
世、又は温度ヒュー器の表示灯が点灯 ズを外し、全ての防しないこと者しく 火シャッター ((二 は音響装置が鳴動 十七)の項の点検が 行われるものを除 く。)の作動の状況 を確認する。ただし、連動機構用予備 電源ごとに、少なく とも一以上の防火 シャッターについ て、予備電源に切り 替えた状態で作動 の状況を確認する。 (二十七) 防火区画(令第百十当該区画のうちー 二条第十一項から 以上を対象として、正常に閉鎖しない 第十三項までの規煙感知器又は熱煙 こと、連動制御器の 定による区画に限 複合式感知器を作 表示灯が点灯しな る。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音				閉鎖の状況	式感知器若しくは	正常に閉鎖しない
ズを外し、全ての防 火シャッター ((二、は音響装置が鳴動 十七)の項の点検が しないこと。 行われるものを除 く。)の作動の状況 を確認する。ただ し、連動機構用予備 電源ごとに、少なく とも一以上の防火 シャッターについ て、予備電源に切り 替えた状態で作動 の状況を確認する。 (二十七) 防外区画(令第百十当該区画のうちー 二条第十一項から 以上を対象として、正常に閉鎖しない 第十三項までの規 煙感知器又は熱煙 こと、連動制御器の 定による区画に限 複合式感知器を作 表示灯が点灯しな る。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音					熱感知器を作動さ	こと又は連動制御
大シャッター ((二 は音響装置が鳴動 十七)の項の点検がしないこと。 行われるものを除 く。)の作動の状況 を確認する。ただ し、連動機構用予備 電源ごとに、少なく とも一以上の防火 シャッターについ て、予備電源に切り 替えた状態で作動 の状況を確認する。 (二十七) 防火区画(令第百十当該区画のうちー 防火シャッターが 二条第十一項から 以上を対象として、正常に閉鎖しない 第十三項までの規 煙感知器又は熱煙 こと、連動制御器の 定による区画に限 複合式感知器を作 表示灯が点灯しな る。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音					せ、又は温度ヒュー	器の表示灯が点灯
十七)の項の点検が 行われるものを除 く。)の作動の状況 を確認する。ただ し、連動機構用予備 電源ごとに、少なく とも一以上の防火 シャッターについ て、予備電源に切り 替えた状態で作動 の状況を確認する。 防火区画(令第百十当該区画のうちー 以上を対象として、正常に閉鎖しない 第十三項までの規煙感知器又は熱煙 定による区画に限複合式感知器を作表示灯が点灯しなる。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音					ズを外し、全ての防	しないこと若しく
行われるものを除 く。)の作動の状況 を確認する。ただ し、連動機構用予備 電源ごとに、少なく とも一以上の防火 シャッターについ て、予備電源に切り 替えた状態で作動 の状況を確認する。  防火区画(令第百十 当該区画のうちー 防火シャッターが 二条第十一項から 以上を対象として、正常に閉鎖しない 第十三項までの規 煙感知器又は熱煙 こと、連動制御器の 定による区画に限 複合式感知器を作 表示灯が点灯しな る。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音					火シャッター((二	は音響装置が鳴動
く。)の作動の状況を確認する。ただし、連動機構用予備電源ごとに、少なくとも一以上の防火シャッターについて、予備電源に切り替えた状態で作動の状況を確認する。  (二十七)  防火区画(令第百十当該区画のうちー防火シャッターが二条第十一項から以上を対象として、正常に閉鎖しない第十三項までの規煙感知器又は熱煙こと、連動制御器の定による区画に限複合式感知器を作表示灯が点灯しなる。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音					十七)の項の点検が	しないこと。
を確認する。ただし、連動機構用予備電源ごとに、少なくとも一以上の防火シャッターについて、予備電源に切り替えた状態で作動の状況を確認する。  (二十七)  防火区画(令第百十当該区画のうちー防火シャッターが二条第十一項から以上を対象として、正常に閉鎖しない第十三項までの規煙感知器又は熱煙こと、連動制御器の定による区画に限複合式感知器を作表示灯が点灯しなる。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音					行われるものを除	
し、連動機構用予備電源ごとに、少なくとも一以上の防火シャッターについて、予備電源に切り替えた状態で作動の状況を確認する。  (二十七)  防火区画(令第百十当該区画のうちー防火シャッターが工条第十一項から以上を対象として、正常に閉鎖しない第十三項までの規煙感知器又は熱煙こと、連動制御器の定による区画に限複合式感知器を作表示灯が点灯しなる。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音					く。)の作動の状況	
電源ごとに、少なくとも一以上の防火シャッターについて、予備電源に切り替えた状態で作動の状況を確認する。 (二十七)  防火区画(令第百十当該区画のうち一 防火シャッターが二条第十一項から 以上を対象として、正常に閉鎖しない第十三項までの規煙感知器又は熱煙こと、連動制御器の定による区画に限複合式感知器を作表示灯が点灯しなる。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音					を確認する。ただ	
とも一以上の防火 シャッターについ て、予備電源に切り 替えた状態で作動 の状況を確認する。 (二十七) 防火区画(令第百十当該区画のうちー 防火シャッターが 二条第十一項から 以上を対象として、正常に閉鎖しない 第十三項までの規 煙感知器又は熱煙 こと、連動制御器の 定による区画に限 複合式感知器を作 表示灯が点灯しな る。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音					し、連動機構用予備	
シャッターについ て、予備電源に切り 替えた状態で作動 の状況を確認する。 (二十七) 防火区画(令第百十当該区画のうちー 防火シャッターが 二条第十一項から 以上を対象として、正常に閉鎖しない 第十三項までの規 煙感知器又は熱煙 こと、連動制御器の 定による区画に限 複合式感知器を作 表示灯が点灯しな る。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音					電源ごとに、少なく	
て、予備電源に切り 替えた状態で作動 の状況を確認する。 (二十七) 防火区画(令第百十当該区画のうちー 防火シャッターが 二条第十一項から 以上を対象として、正常に閉鎖しない 第十三項までの規 煙感知器又は熱煙 こと、連動制御器の 定による区画に限 複合式感知器を作 表示灯が点灯しな る。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音					とも一以上の防火	
替えた状態で作動の状況を確認する。 (二十七) 防火区画(令第百十当該区画のうちー 防火シャッターが 二条第十一項から 以上を対象として、正常に閉鎖しない 第十三項までの規 煙感知器又は熱煙 こと、連動制御器の 定による区画に限 複合式感知器を作 表示灯が点灯しな る。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音					シャッターについ	
の状況を確認する。 (二十七) 防火区画(令第百十当該区画のうち一 防火シャッターが 二条第十一項から 以上を対象として、正常に閉鎖しない 第十三項までの規 煙感知器又は熱煙 こと、連動制御器の 定による区画に限 複合式感知器を作 表示灯が点灯しな る。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音					て、予備電源に切り	
(二十七) 防火区画(令第百十当該区画のうち一 防火シャッターが 二条第十一項から 以上を対象として、正常に閉鎖しない 第十三項までの規 煙感知器又は熱煙 こと、連動制御器の 定による区画に限 複合式感知器を作 表示灯が点灯しな る。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音					替えた状態で作動	
二条第十一項から 以上を対象として、正常に閉鎖しない 第十三項までの規 煙感知器又は熱煙 こと、連動制御器の 定による区画に限 複合式感知器を作 表示灯が点灯しな る。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音					の状況を確認する。	
第十三項までの規 煙感知器又は熱煙 こと、連動制御器の定による区画に限 複合式感知器を作 表示灯が点灯しなる。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音	(二十七)			防火区画(令第百十	当該区画のうち一	防火シャッターが
定による区画に限 複合式感知器を作 表示灯が点灯しなる。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音				二条第十一項から	以上を対象として、	正常に閉鎖しない
る。)の形成の状況動させ、複数の防火いこと若しくは音				第十三項までの規	煙感知器又は熱煙	こと、連動制御器の
				定による区画に限	複合式感知器を作	表示灯が点灯しな
シャッターの作動「郷生置が鳴動」な				る。) の形成の状況	動させ、複数の防火	いこと若しくは音
マインノ・ジルト部					シャッターの作動	響装置が鳴動しな
の状況及びその作 いこと又は防火区					の状況及びその作	いこと又は防火区
動による防火区画画が適切に形成さ					動による防火区画	画が適切に形成さ

	の形成の状況を確	れないこと。
	認する。	

# 別表第三

	(い)検査	項目	(ろ)検査事項	(は)検査方法	(に)判定基準
()	耐火クロ	設置場所の周囲	閉鎖の障害となる	目視等により確認	物品が放置されて
	ススクリ	状況	物品の放置並びに	する。	いること等により
	ーン		照明器具及び懸垂		耐火クロススクリ
			物等の状況		ーンの閉鎖又は作
					動に支障があるこ
					と。
( <u></u> )		駆動装置	ローラチェーンの	目視等、聴診又は触	腐食があること、異
			劣化及び損傷の状	診により確認する。	常音があること若
			況		しくは歯飛びして
					いること、又はたる
					み若しくは固着が
					あること。
(三)		カーテン部	耐火クロス及び座	耐火クロススクリ	変形、損傷又は著し
			板の劣化及び損傷	ーンを閉鎖し、目視	い腐食があること。
			の状況	等により確認する。	
(四)			吊り元の劣化及び	目視等又は触診に	変形、損傷若しくは
			損傷並びに固定の	より確認する。	著しい腐食がある
			状況		こと又は固定ボル
					トの締め付けが堅
					固でないこと。
(五)		ケース	劣化及び損傷の状	目視等により確認	ケースに外れがあ
			况	する。	ること。
(六)		まぐさ及びガイ	劣化及び損傷の状	目視等により確認	まぐさ若しくはガ
		ドレール	況	する。	イドレールの本体
					に変形、損傷若しく
					は著しい腐食があ
					ること又は遮煙材
					に著しい損傷若し

				くは脱落があるこ
				と。
(七)	危害防止装置	危害防止用連動中	目視等により確認	劣化、損傷又は脱落
	(人の通行の用	継器の配線の状況	する。	があること。
	に供する部分に			
	設ける耐火クロ			
	ススクリーンに			
	係るものに限			
	る。)			
(八)		危害防止装置用予	目視等により確認	変形、損傷又は著し
		備電源の劣化及び	する。	い腐食があること。
		損傷の状況		
(九)		危害防止装置用予	予備電源試験スイ	容量が不足してい
		備電源の容量の状	ッチ等を操作し、目	ること。
		況	視等により確認す	
			る。	
(+)		座板感知部の劣化	目視等により確認	変形、損傷若しくは
		及び損傷並びに作	するとともに、座板	著しい腐食がある
		動の状況	感知部を作動させ、	こと又は耐火クロ
			耐火クロススクリ	ススクリーンの降
			ーンの降下が停止	下が停止しないこ
			することを確認す	と。
			る。	
(+-)		作動の状況	イ 巻取り式	運動エネルギーが
			耐火クロススク	十ジュールを超え
			リーンの閉鎖時	ること、座板感知部
			間をストップウ	が作動してからの
			オッチ等により	停止距離が五セン
			測定し、カーテン	チメートルを超え
			部の質量により	ること又は耐火ク
			運動エネルギー	ロススクリーンが
			を確認するとと	再降下しないこと。
			もに、座板感知部	

1	ı	1			
				の作動により耐	
				火クロススクリ	
				ーンの降下を停	
				止させ、その停止	
				距離を鋼製巻尺	
				等により測定す	
				る。また、その作	
				動を解除し、耐火	
				クロススクリー	
				ンが再降下する	
				ことを確認する。	
				ロ バランス式	運動エネルギーが
				耐火クロススク	十ジュールを超え
				リーンの閉鎖時	ること又は閉鎖力
				間をストップウ	が百五十ニュート
				オッチ等により	ンを超えること。
				測定し、カーテン	
				部の質量により	
				運動エネルギー	
				を確認するとと	
				もに、プッシュプ	
				ルゲージ等によ	
				り閉鎖力を測定	
				する。	
(+=)	連動機構	煙感知器、熱煙	設置位置	目視等により確認	煙感知器又は熱煙
		複合式感知器及		するとともに、必要	複合式感知器にあ
		び熱感知器		に応じて鋼製巻尺	っては昭和四十八
				等により測定する。	年建設省告示第二
					千五百六十三号第
					一第二号ニ(2)に
					掲げる場所に設け
					ていないこと。熱感
					知器にあっては昭

					7. m 1 11 6-71-11 //s
					和四十八年建設省
					告示第二千五百六
					十三号第一第二号
					ニ(2)(i)及び(i
					i)に掲げる場所に
					設けていないこと。
(十三)			感知の状況	(二十二)の項又は	適正な時間内に感
				(二十三)の項の点	知しないこと。
				検が行われるもの	
				以外のものを対象	
				として、加煙試験	
				器、加熱試験器等に	
				より感知の状況を	
				確認する。ただし、	
				前回の検査以降に	
				同等の方法で実施	
				した検査の記録が	
				ある場合にあって	
				は、当該記録により	
				確認することで足	
				りる。	
(十四)		連動制御器	スイッチ類及び表	目視等により確認	スイッチ類に破損
			示灯の状況	する。	があること又は表
					示灯が点灯しない
					こと。
(十五)			結線接続の状況	目視等又は触診に	断線、端子の緩み、
				より確認する。	脱落又は損傷等が
					あること。
(十六)			接地の状況	回路計、ドライバー	接地線が接地端子
				等により確認する。	に緊結されていな
					いこと。
(十七)			予備電源への切り	常用電源を遮断し、	自動的に予備電源
			替えの状況	作動の状況を確認	に切り替わらない
	l l		l	I	

				する。	こと。
(十八)		連動機構用予備	劣化及び損傷の状	目視等により確認	変形、損傷又は著し
		電源	況	する。	い腐食があること。
(十九)			容量の状況	予備電源試験スイ	容量が不足してい
				ッチ等を操作し、目	ること。
				視等により確認す	
				る。	
(二十)		自動閉鎖装置	設置の状況	目視等又は触診に	取付けが堅固でな
				より確認する。	いこと又は変形、損
					傷若しくは著しい
					腐食があること。
(二十一)		手動閉鎖装置	設置の状況	目視等により確認	速やかに作動させ
				するとともに、必要	ることができる位
				に応じて鋼製巻尺	置に設置されてい
				等により測定する。	ないこと、周囲に障
					害物があり操作が
					できないこと、変
					形、損傷若しくは著
					しい腐食があるこ
					と又は打ち破り窓
					のプレートが脱落
					していること。
(二十二)	総合的な作	作動の状況	耐火クロススクリ	煙感知器、熱煙複合	耐火クロススクリ
			ーンの閉鎖の状況	式感知器又は熱感	ーンが正常に閉鎖
				知器を作動させ、全	しないこと又は連
				ての耐火クロスス	動制御器の表示灯
				クリーン((二十三)	が点灯しないこと
				の項の点検が行わ	若しくは音響装置
				れるものを除く。)	が鳴動しないこと。
				の作動の状況を確	
				認する。ただし、連	
				動機構用予備電源	
				ごとに、少なくとも	

		一以上の耐火クロ	
		ススクリーンにつ	
		いて、予備電源に切	
		り替えた状態で作	
		動の状況を確認す	
		る。	
(二十三)	防火区画(令第百十	当該区画のうちー	耐火クロススクリ
	二条第十一項から	以上を対象として、	ーンが正常に閉鎖
	第十三項までの規	煙感知器又は熱煙	しないこと、連動制
	定による区画に限	複合式感知器を作	御器の表示灯が正
	る。) の形成の状況	動させ、複数の耐火	常に点灯しないこ
		クロススクリーン	と又は音響装置が
		の作動の状況及び	鳴動しないこと及
		その作動による防	び防火区画が適切
		火区画の形成の状	に形成されないこ
		況を確認する。	と。

# 別表第四

	(い)検査	項目	(ろ)検査事項	(は)検査方法	(に)判定基準
()	ドレンチ	設置場所の周囲	作動の障害となる	目視等により確認	物品が放置されて
	ャー等	状況	物品の放置並びに	する。	いること等により
			照明器具及び懸垂		ドレンチャー等の
			物等の状況		作動に支障がある
					こと。
(_)		散水ヘッド	散水ヘッドの設置	目視等により確認	水幕を正常に形成
			の状況	する。	できない位置に設
					置されていること
					又は塗装若しくは
					異物の付着等があ
					ること。
(三)		開閉弁	開閉弁の状況	目視等により確認	変形、損傷又は著し
				する。	い腐食があること。
(四)		排水設備	排水の状況	次に掲げる方法の	排水が正常に行わ
				いずれかによる。	れないこと。

		1		
			イ 放水区域に放	
			水することがで	
			きる場合にあっ	
			ては、放水し、排	
			水の状況を目視	
			等により確認す	
			る。	
			ロ 放水区域に放	
			水することがで	
			きない場合にあ	
			っては、放水せ	
			ず、排水口のつま	
			り等を目視等に	
			より確認する。	
(五)	水源	貯水槽の劣化及び	目視等により確認	変形、損傷若しくは
		損傷、水質並びに水	する。	著しい腐食がある
		量の状況		こと、水質に著しい
				腐敗、浮遊物、沈殿
				物等があること又
				は規定の水量が確
				保されていないこ
				と。
(六)		給水装置の状況	目視等により確認	変形、損傷又は著し
			する。	い腐食があること。
(七)	加圧送水装置	ポンプ制御盤のス	目視等又は作動の	スイッチ類に破損
		イッチ類及び表示	状況により確認す	があること、表示灯
		灯の状況	る。	が点灯しないこと
				又はスイッチ類が
				機能しないこと。
(八)		結線接続の状況	目視等又は触診に	断線、端子の緩み、
			より確認する。	脱落又は損傷等が
				あること。
(九)		接地の状況	回路計、ドライバー	接地線が接地端子
	l l		l	

動用圧力スイッチ 状況により確認す 著しい腐食がある こと又は正常に作 別しないこと。 (十五) 連動機構 煙感知器、熱煙 複合式感知器及 で熱感知器(火 災感知用ヘッド 等の感知装置を含む。) 状況により確認 著しい腐食があること又は正常に作 動しないこと。 恒息知器又は熱煙 複合式感知器にあいたじて鋼製巻尺 っては昭和四十八 等により測定する。 年建設省告示第二千五百六十三号第一第二号二(2)に 掲げる場所に設けていないこと。熱感		]				
(十一) (十一) (十一) (十一) (十一) (十一) (十一) (十一)					等により確認する。 	に緊結されていな
(十一) 連動機構 種感知器、熱煙 設置位置 目視等により確認する。 こと、測滑油等が必要量ないこと、装置 若しくは配管への 接続に緩みがある こと又は基礎への 取付けが堅固でないこと。		ļ				いこと。
(十一) 連動機構 煙感知器、熱煙 設置位置 目視等により確認する。こと又は正常に作物の行為素質の状況 からこと。 (十五) 連動機構 煙感知器 (火災感知用ヘッド等の成知装置を 次別、 20世紀 (大五) (十五) 連動機構 では、 20世紀 (大五) (大五) (大五) (大五) (大五) (大五) (大五) (大五)	(十)			ポンプ及び電動機	目視等又は触診に	回転が円滑でない
(十一)				の状況	より確認する。	こと、潤滑油等が必
(十一)         連動機構 煙感知器及び熟感知器及び熱感知器及が熱感知器と含さむ。)         情報報酬         情報解析性、関係な運動の大力の大力の表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表						要量ないこと、装置
(十一)         連動機構 煙感知器、熱煙 設定が熟暖知器 (火災感知用ヘッド等の感知装置を含む。)         連動機構 煙感知器、熱煙 設置位置 特に応じて銅製巻尺 (大正) (大正) (大正) (大正) (大正) (大正) (大正) (大正)						若しくは配管への
(十一)						接続に緩みがある
(十一)       車動機構 煙感知器、熱煙 複合式感知器 人で熟成知器 人で熟成知器 人で熟成知器 人で熟成知器 人で熟成知器 人 交感知 表記 とこと。       1 日視等により確認 変形、損傷者しくは 対 る。 と。         (十三)       加圧送水装置用予 備電源の劣化及び する。						こと又は基礎への
(十一) 加圧送水装置用予 常用電源を遮断し、自動的に予備電源 に切り替わらない こと。						取付けが堅固でな
(十二)						いこと。
(十二)       えの状況       する。       こと。         加圧送水装置用予 備電源の劣化及び 損傷の状況       する。       い腐食があること。         (十三)       加圧送水装置用予 備電源試験スイ 変量が不足してい 少チ等を操作し、目 視等により確認する。         (十四)       正力計、呼水槽、起 目視等又は作動の 変形、損傷若しくは 動用圧力スイッチ	(+-)			加圧送水装置用予	常用電源を遮断し、	自動的に予備電源
(十二) 加圧送水装置用予 目視等により確認 変形、損傷又は著しい腐食があること。 損傷の状況 カル圧送水装置用予 予備電源試験スイ 容量が不足していること。 視等により確認する。 (十四)				備電源への切り替	作動の状況を確認	に切り替わらない
(十三) 構電源の劣化及び する。 い腐食があること。 損傷の状況 カエ送水装置用予 予備電源試験スイ 容量が不足してい ッチ等を操作し、目 ること。 祝 展力計、呼水槽、起 目視等又は作動の 変形、損傷者しくは 動用圧力スイッチ				えの状況	する。	こと。
損傷の状況   担傷の状況     担傷の状況	(十二)			加圧送水装置用予	目視等により確認	変形、損傷又は著し
(十三) 加圧送水装置用予				備電源の劣化及び	する。	い腐食があること。
(十四) 構電源の容量の状 ッチ等を操作し、目 視等により確認する。 (十四) 圧力計、呼水槽、起目視等又は作動の 変形、損傷若しくは 動用圧力スイッチ 状況により確認す 著しい腐食がある こと又は正常に作 動しないこと。 (十五) 連動機構 煙感知器、熱煙 設置位置 目視等により確認 煙感知器又は熱煙 複合式感知器及 で熱感知器 (火 災感知用ヘッド 等の感知装置を含む。) 等により測定する。年建設省告示第二千五百六十三号第一第二号二(2)に 掲げる場所に設けていないこと。熱感				損傷の状況		
(十四)   提等により確認する。	(十三)			加圧送水装置用予	予備電源試験スイ	容量が不足してい
(十四)				備電源の容量の状	ッチ等を操作し、目	ること。
(十四)				況	視等により確認す	
動用圧力スイッチ 状況により確認す 著しい腐食がある こと又は正常に作 動しないこと。 (十五) 連動機構 煙感知器、熱煙 設置位置 目視等により確認 煙感知器又は熱煙 複合式感知器及 び熱感知器(火 災感知用ヘッド 等により測定する。年建設省告示第二 千五百六十三号第 含む。) 第二号二(2)に 掲げる場所に設けていないこと。熱感					る。	
等の付属装置の状 る。 こと又は正常に作 動しないこと。 (十五) 連動機構 煙感知器、熱煙 設置位置 目視等により確認 煙感知器又は熱煙 複合式感知器及 び熱感知器 (火 災感知用ヘッド 等により測定する。年建設省告示第二 年五百六十三号第 合む。) ー第二号ニ(2)に 掲げる場所に設け ていないこと。熱感	(十四)			圧力計、呼水槽、起	目視等又は作動の	変形、損傷若しくは
(十五) 連動機構 煙感知器、熱煙 設置位置 目視等により確認 煙感知器又は熱煙 複合式感知器及 び熱感知器(火 災感知用ヘッド 等により測定する。年建設省告示第二 千五百六十三号第 合む。) コーデニ号ニ(2)に 掲げる場所に設け ていないこと。熱感				動用圧力スイッチ	状況により確認す	著しい腐食がある
(十五) 連動機構 煙感知器、熱煙 設置位置 目視等により確認 煙感知器又は熱煙 複合式感知器及 び熱感知器 (火 災感知用ヘッド 等により測定する。年建設省告示第二 千五百六十三号第 合む。) に応じて鋼製券 (2)に 掲げる場所に設け ていないこと。熱感				等の付属装置の状	る。	こと又は正常に作
複合式感知器及 び熱感知器 (火 災感知用ヘッド 等の感知装置を 含む。)  するとともに、必要複合式感知器にあ に応じて鋼製巻尺 っては昭和四十八 等により測定する。年建設省告示第二 千五百六十三号第 一第二号ニ(2)に 掲げる場所に設け ていないこと。熱感				況		動しないこと。
び熱感知器(火 災感知用ヘッド 等の感知装置を 含む。) に応じて鋼製巻尺 っては昭和四十八 等により測定する。年建設省告示第二 千五百六十三号第 一第二号ニ(2)に 掲げる場所に設け ていないこと。熱感	(十五)	連動機構	煙感知器、熱煙	設置位置	目視等により確認	煙感知器又は熱煙
災感知用ヘッド 等の感知装置を 含む。) 等により測定する。年建設省告示第二 千五百六十三号第 一第二号ニ(2)に 掲げる場所に設け ていないこと。熱感			複合式感知器及		するとともに、必要	複合式感知器にあ
等の感知装置を 含む。) 一第二号ニ(2)に 掲げる場所に設け ていないこと。熱感			び熱感知器(火		に応じて鋼製巻尺	っては昭和四十八
含む。) - 第二号二(2)に 掲げる場所に設け ていないこと。熱感			災感知用ヘッド		等により測定する。	年建設省告示第二
掲げる場所に設けていないこと。熱感			等の感知装置を			千五百六十三号第
ていないこと。熱感			含む。)			一第二号ニ(2)に
						掲げる場所に設け
知器にあっては昭						ていないこと。熱感
)						知器にあっては昭

				和四十八年建設省
				告示第二千五百六
				十三号第一第二号
				ニ(2)(i)及び(i
				i)に掲げる場所に
				設けていないこと。
(十六)		感知の状況	(二十五)の項又は	適正な時間内に感
			(二十六)の項の点	知しないこと。
			検が行われるもの	
			以外のものを対象	
			として、加煙試験	
			器、加熱試験器等に	
			より感知の状況を	
			確認する。ただし、	
			前回の検査以降に	
			同等の方法で実施	
			した検査の記録が	
			ある場合にあって	
			は、当該記録により	
			確認することで足	
			りる。	
(十七)	連動制御器	スイッチ類及び表	目視等により確認	スイッチ類に破損
		示灯の状況	する。	があること又は表
				示灯が点灯しない
				こと。
(十八)		結線接続の状況	目視等又は触診に	断線、端子の緩み、
			より確認する。	脱落又は損傷等が
				あること。
(十九)		接地の状況	回路計、ドライバー	接地線が接地端子
			等により確認する。	に緊結されていな
				いこと。
(二十)		予備電源への切り	常用電源を遮断し、	自動的に予備電源
		替えの状況	作動の状況を確認	に切り替わらない

				する。	こと。
(二十一)		連動機構用予備	劣化及び損傷の状	目視等により確認	変形、損傷又は著し
		電源	況	する。	い腐食があること。
(=+=)			容量の状況	予備電源試験スイ	容量が不足してい
				ッチ等を操作し、目	ること。
				視等により確認す	
				る。	
(二十三)		自動作動装置	設置の状況	目視等又は触診に	取付けが堅固でな
				より確認する。	いこと又は変形、損
					傷若しくは著しい
					腐食があること。
(二十四)		手動作動装置	設置の状況	目視等により確認	速やかに作動させ
				するとともに、必要	ることができる位
				に応じて鋼製巻尺	置に設置されてい
				等により測定する。	ないこと、周囲に障
					害物があり操作が
					できないこと、変
					形、損傷若しくは著
					しい腐食があるこ
					と又は打ち破り窓
					のプレートが脱落
					していること。
(二十五)	総合的な作	作動の状況	ドレンチャー等の	次のいずれかの方	ドレンチャー等が
			作動の状況	法により全てのド	正常に作動しない
				レンチャー等 ((二	こと又は制御盤の
				十六)の項の点検が	表示灯が点灯しな
				行われるものを除	いこと。
				く。)の作動の状況	
				を確認する。ただ	
				し、連動機構用予備	
				電源ごとに、少なく	
				とも一以上のドレ	
				ンチャー等につい	

		て、予備電源に切り	
		替えた状態で作動	
		の状況を確認する。	
		イ 放水区域に放	
		水することがで	
		きる場合にあっ	
		ては、煙感知器、	
		熱煙複合式感知	
		器又は熱感知器	
		を作動させて行	
		う方法	
		ロ 放水区域に放	
		水することがで	
		きない場合にあ	
		っては、放水試験	
		による方法	
(二十六)	防火区画(令第百十	当該区画のうち一	ドレンチャー等が
	二条第十一項から	以上を対象として、	正常に作動しない
	第十三項までの規	(二十五)の項(は)	こと、制御盤の表示
	定による区画に限	欄イ又は口に掲げ	灯が点灯しないこ
	る。) の形成の状況	る方法により複数	と又は防火区画が
		のドレンチャー等	
		の作動の状況及び	
		その作動による防	, and the second
		火区画の形成の状	
		況を確認する。	
		プログル用型の み の。	

# **検査結果表** (防火扉)

当該検査に関与 した検査者		氏 名	検査者番号
	代表となる検査者		
	その他の検査者		

┃						検査結果		to w
(1) (2) (2) (3) (2) (3) (4) (4) (6) (7) (7) (8) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (16) (17) (16) (17) (16) (17) (18) (18) (18) (18) (18) (18) (18) (18	番号	<b>+</b>	<b>黄査項目</b>	検査事項	指摘	要是正	- +	担当 検査者
(2) (3) (3) (4) (4) (5) (6) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) 総合的な作動の状況 (18) (18) (17) 総合的な作動の状況 (18) (18) (18) (18) (18) (18) (17) (18) (18) (18) (18) (18) (19) (19) (10) (10) (10) (11) (11) (11) (12) (13) (14) (15) (15) (16) (17) (17) (18) (18) (18) (18) (18) (18) (19) (19) (10) (10) (11) (11) (11) (12) (13) (14) (15) (15) (16) (17) (17) (18) (18) (18) (18) (19) (19) (19) (10) (11) (11) (12) (13) (14) (15) (15) (16) (17) (17) (18) (18) (18) (18) (18) (18) (18) (18					なし			
(2) (3) (3) (4) (4) (5) (6) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) 総合的な作動の状況 (18) (18) (18) (17) 総合的な作動の状況 (18) (18) (18) (18) (18) (18) (18) (18)	(1)							
(3) 防火犀	(9)					_		
(4)						_	_	
(4) (5) 常期防火扉 固定の状況 人の通行の用に供する部分に設ける 防火扉 機應知器、熱煙複 設置位置 (7) 優感知器、熱煙複 設置位置 (7) (8) (9) (10) 連動機 推動制御器 経動制御器 経動機構用予備電 第4の状況 接地の状況 接地の状況 接地の状況 (12) (13) (14) (15) (16) (16) (17) 総合的な作動の状況 関動開鎖装置 数置の状況 (18) (17) 総合的な作動の状況 (18) (18) (18) (18) (18) (18) (18) (18)	(0)	防火扉						
する部分に設ける   作動の状況   作動の状況   作動の状況   接置位置   接面位置   接面の状況   成知器   成知器   成知の状況   成知器   成五の状況   成五の状況   成五の状況   本動機   在動機   在動機機の状況   技能の状況   方備電源への切り替えの状況   方備電源への切り替えの状況   方備電源への切り替えの状況   方備電源への切り替えの状況   方備電源への切り替えの状況   方備電源への切り替えの状況   方備電源への切りを含めている   第四の状況   第四の状況   第四の状況   第四の状況   第四の大阪   表面の下面の下面の下面の下面の下面の下面の下面の下面の下面の下面の下面の下面の下面	(4)	020 13,	常閉防火扉					
防火扉	(5)	1	人の通行の用に供					
(6)	l		する部分に設ける	作動の状況		l		
(7) 合式感知器及び熱感知器 感知の状況 温度ヒューズ装置 設置の状況 温度ヒューズ装置 設置の状況 コイッチ類及び表示灯の状況 結線接続の状況 接地の状況 子備電源への切り替えの状況 1(12) 連動機構用子備電 劣化及び損傷の状況 容量の状況 自動閉鎖装置 設置の状況 自動閉鎖装置 設置の状況 再ロック防止機構の作動の状況 防火扉(常閉防火扉を除く。)の 閉鎖の状況 防火匠画の形成の状況 防火区画の形成の状況 防火区画の形成の状況 大配以外の検査項目			防火扉					
感知の状況   過度ヒューズ装置   設置の状況   2イッチ類及び表示灯の状況   11)   接地の状況   接地の状況   接地の状況   接地の状況   予備電源への切り替えの状況   13)   連動機構用予備電   第 化及び損傷の状況   第 電の状況   14)   15)   自動閉鎖装置   設置の状況   16)   自動閉鎖装置   設置の状況   17)   接合的な作動の状況   17)   接合的な作動の状況   18)   18)   19)				設置位置				
(9)       連動機       タイッチ類及び表示灯の状況         (11)       構       連動機構用予備電       接地の状況         (12)       運動機構用予備電       労化及び損傷の状況         (14)       原       安量の状況         (16)       自動閉鎖装置       設置の状況         (17)       総合的な作動の状況       防火扉(常閉防火扉を除く。)の         財銀の状況       防火区画の形成の状況         上記以外の検査項目       株体の目体的内容等       改善(予	(7)			感知の状況				
連動機   連動機   連動制御器	(8)		温度ヒューズ装置	設置の状況				
(11) 構 接地の状況	(9)	1		スイッチ類及び表示灯の状況				
(11) 構 接地の状況	(10)	連動機	連動制御器	結線接続の状況				
(13)       連動機構用予備電 第化及び損傷の状況         (14)       源         (15)       自動閉鎖装置         (16)       設置の状況         (17)       防火扉(常閉防火扉を除く。)の閉鎖の状況         (18)       防火区画の形成の状況         上記以外の検査項目       お本項目         特記事項       お本項目         おお項目       お本項目         おお項目       お本項目	(11)	構		接地の状況				
(14)     源     容量の状況       (15)     自動閉鎖装置     設置の状況       (16)     再ロック防止機構の作動の状況       (17)     防火扉(常閉防火扉を除く。)の閉鎖の状況       (18)     防火区画の形成の状況       上配以外の検査項目     特記事項       番品事項     株本項目     株本項目     株本項目     株本項目     株本項目     株本項目	(12)	1		予備電源への切り替えの状況				
(15) (16) 自動閉鎖装置 設置の状況 再ロック防止機構の作動の状況 (17) 協合的な作動の状況 防火扉(常閉防火扉を除く。)の 閉鎖の状況 (18) 防火区画の形成の状況 上記以外の検査項目 特記事項  ※会 検査項目	(13)	1	連動機構用予備電	劣化及び損傷の状況				
(16)     自動閉鎖装置     再ロック防止機構の作動の状況       (17)     防火扉(常閉防火扉を除く。)の閉鎖の状況       (18)     防火区画の形成の状況       上配以外の検査項目     防火区画の形成の状況       特記事項     ※参の具体的内容等       改善(予	(14)	1		容量の状況				
(16) 再ロック防止機構の作動の状況 防火扉(常閉防火扉を除く。)の 閉鎖の状況 (18) 防火区画の形成の状況 下記以外の検査項目 特記事項 ************************************	(15)	]		設置の状況				
総合的な作動の状況 (18) 閉鎖の状況 防火区画の形成の状況  上記以外の検査項目 特記事項  ※会 検索項目 性線の具体的内容等 改善(予	(16)			再ロック防止機構の作動の状況				
防火区画の形成の状況	(17)			防火扉(常閉防火扉を除く。)の				
上記以外の検査項目 特記事項 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		総合的な	な作動の状況					
特記事項 来是 给本項目 指统の具体的内容等 改善(予				防火区画の形成の状況				
来县 给本语日 指统の目体的内容等 改善(予	上記以	以外の検査	E項目					
来县 给本语日 指统の目体的内容等 改善(予								
来县 给本语日 指统の目体的内容等 改善(予								
来县 给本语日 指统の目体的内容等 改善(予								
	特記事	項						
	番号		検査項目	指摘の具体的内容等				

- この書類は、建築物ごとに作成してください。
- ② 記入欄が不足する場合は、枠を拡大、行を追加して記入するか、別紙に必要な事項を記入して添えてください。
- ③ 「当該検査に関与した検査者」欄は、建築基準法施行規則別記第36の8様式第二面4欄に記入した検査者について記入し、「検査者番号」欄に検査者を特定できる番号、記号等を記入してください。当該防火設備の検査を行った検査者が1人の場合は、その他の検査者欄は記入不要です。
- ④ 該当しない検査項目がある場合は、その「検査結果」欄及び「担当検査者番号」欄に「-」を記入してください。
- ⑤ 「検査結果」欄は、別表(い)欄に掲げる各検査項目ごとに記入してくださ ・ い。
- ⑥ 「検査結果」欄のうち「要是正」欄は、別表(い)欄に掲げる検査項目について同表(ろ)欄に掲げる検査事項のいずれかが同表(に)欄に掲げる判定基準に該当する場合に○印を記入してください。
- ⑦ 「検査結果」欄のうち「指摘なし」欄は、⑥に該当しない場合に○印を記入 してください。
- ⑧ 「既存不適格」欄は、「要是正」欄に〇印を記入した場合で、建築基準法第 3条第2項の規定の適用を受けているものであることが確認されたときは、〇 印を記入してください。
- ⑨ 「担当検査者番号」欄は、「検査に関与した検査者」欄で記入した番号、記号等を記入してください。ただし、当該防火設備の検査を行った検査者が1人の場合は、記入不要です。
- ① 「上記以外の検査項目」欄は、第2第2項の規定により特定行政庁が検査項目等を付加している場合に、当該検査項目等を追加し、⑤から⑨までに準じて検査結果等を記入してください。また、第2第3項に規定する認定検査項目等が定められている場合に、当該認定検査項目等を追加し、⑤から⑨までに準じて検査結果等を記入してください。
- ① 「特記事項」は、検査の結果、要是正の指摘があった場合のほか、指摘がない場合にあっても特記すべき事項がある場合に、該当する検査項目の番号、検査項目を記入し、「指摘の具体的内容等」欄に指摘又は特記すべき事項の具体的内容を記入するとともに、改善済みの場合及び改善策が明らかになっている場合は「改善策の具体的内容等」欄にその内容を記入し、改善した場合は「改善(予定)年月」欄に当該年月を記入し、改善予定年月が明らかになっている場合は「改善(予定)年月」欄に当該年月を()書きで記入してください。
- ② 各階平面図を別添1の様式に従い添付し、防火扉の設置されている箇所及び 指摘(特記すべき事項を含む)のあった箇所を明記してください。なお、別添 1の様式は別記第二号、別記第三号又は別記第四号の各々の別添1の様式に記載すべき事項を合わせて記載することとして構いません。
- ③ 要是正とされた検査項目(既存不適格の場合を除く。)については、要是正とされた部分を撮影した写真を別添2の様式に従い添付するとともに、撮影した写真の位置を別添1の様式に明記してください。

# 別記第二号 (A4)

**検査結果表** (防火シャッター)

		氏 名	検査者番号
当該検査に関与	代表となる検査者		
した検査者	その他の技术者		
	その他の検査者		

					担当		
番号		食査項目	検査事項	指摘 要定止 既 存			担ヨ 検査者
₩ 7	T:	x 1 4 0	校旦事机	なし		既 存 不適格	番号
(1)		設置場所の周囲状 況	閉鎖の障害となる物品の放置並び に照明器具及び懸垂物等の状況				
(2)		駆動装置	軸受け部のブラケット、巻取りシャフト及び開閉機の取付けの状況 ※ スプロケットの設置の状況※ 軸受け部のブラケット、ベアリン				
(5)			グ及びスプロケット又はロープ車 の劣化及び損傷の状況※ ローラチェーン又はワイヤーロー プの劣化及び損傷の状況				
(6)	防火シ ヤツタ 一	カーテン部	スラット及び座板の劣化等の状況 吊り元の劣化及び損傷並びに固定 の状況				
(9)		ケース まぐさ及びガイド レール	劣化及び損傷の状況 劣化及び損傷の状況				
(10)		危害防止装置 (人の通行の用に 供する部分に設け る防火シャッター に係るものに限 る。)	危害防止用連動中継器の配線の状況 危害防止装置用予備電源の劣化及				
(12)			び損傷の状況 危害防止装置用予備電源の容量の				
(13)			状況 座板感知部の劣化及び損傷並びに 作動の状況				
(14)		IT. D. OT	作動の状況				
(15)		煙感知器、熱煙複 合式感知器及び熱 感知器	設置位置 感知の状況				
(17)	1	温度ヒューズ装置	設置の状況				
(18) (19) (20)	連動機	連動制御器	スイッチ類及び表示灯の状況 紡線接続の状況 接地の状況				
(21) (22)	"	連動機構用予備電源	予備電源への切り替えの状況 劣化及び損傷の状況				
(23) (24)		自動閉鎖装置	容量の状況 設置の状況		_		
(25)		手動閉鎖装置	設置の状況				
(26) (27)	総合的な	子動 和級 表 直 よ作動の状況	防火シャッターの閉鎖の状況 防火区画の形成の状況				
,- ·,	以外の検3	項目	THE PARTY OF THE P				
		_,					
41.55							
特記事	項					- 1-	1.44 / 44
番号		検査項目	指摘の具体的内容等				文善(予 注)年月

- ① この書類は、建築物ごとに作成してください。
- ② 記入欄が不足する場合は、枠を拡大、行を追加して記入するか、別紙に必要な事項を記入して添えてください。
- ③ 「当該検査に関与した検査者」欄は、建築基準法施行規則別記第36の8様式第二面4欄に記入した検査者について記入し、「検査者番号」欄に検査者を特定できる番号、記号等を記入してください。当該防火設備の検査を行った検査者が1人の場合は、その他の検査者欄は記入不要です。
- ④ 該当しない検査項目がある場合は、その「検査結果」欄及び「担当検査者番号」欄に「-」を記入してください。
- ⑤ 「検査結果」欄は、別表(い)欄に掲げる各検査項目ごとに記入してください。
- ⑥ 「検査結果」欄のうち「要是正」欄は、別表(い)欄に掲げる検査項目について同表(ろ)欄に掲げる検査事項のいずれかが同表(に)欄に掲げる判定基準に該当する場合に○印を記入してください。
- ⑦ 「検査結果」欄のうち「指摘なし」欄は、⑥に該当しない場合に○印を記入 してください。
- ⑧ 「既存不適格」欄は、「要是正」欄に〇印を記入した場合で、建築基準法第 3条第2項の規定の適用を受けているものであることが確認されたときは、〇 印を記入してください。
- ⑨ 「担当検査者番号」欄は、「検査に関与した検査者」欄で記入した番号、記 号等を記入してください。ただし、当該防火設備の検査を行った検査者が1人 の場合は、記入不要です。
- ※欄は、日常的に開閉するものについてのみ記入してください。
- ① 「上記以外の検査項目」欄は、第2第2項の規定により特定行政庁が検査項目等を付加している場合に、当該検査項目等を追加し、⑤から⑨までに準じて検査結果等を記入してください。また、第2第3項に規定する認定検査項目等が定められている場合に、当該認定検査項目等を追加し、⑤から⑨までに準じて検査結果等を記入してください。
- ② 「特記事項」は、検査の結果、要是正の指摘があった場合のほか、指摘がない場合にあっても特記すべき事項がある場合に、該当する検査項目の番号、検査項目を記入し、「指摘の具体的内容等」欄に指摘又は特記すべき事項の具体的内容を記入するとともに、改善済みの場合及び改善策が明らかになっている場合は「改善策の具体的内容等」欄にその内容を記入し、改善した場合は「改善(予定)年月」欄に当該年月を記入し、改善予定年月が明らかになっている場合は「改善(予定)年月」欄に当該年月を()書きで記入してください。
- ⑤ 各階平面図を別添1の様式に従い添付し、防火シャッターの設置されている 箇所及び指摘(特記すべき事項を含む)のあった箇所を明記してください。な お、別添1の様式は別記第一号、別記第三号又は別記第四号の各々の別添1の 様式に記載すべき事項を合わせて記載することとして構いません。
- ④ 要是正とされた検査項目(既存不適格の場合を除く。)については、要是正とされた部分を撮影した写真を別添2の様式に従い添付するとともに、撮影した写真の位置を別添1の様式に明記してください。

# 別記第三号(A4)

**検査結果表** (耐火クロススクリーン)

		氏 名	検査者番号
当該検査に関与	代表となる検査者		
した検査者			
	その他の検査者		

					検査結果	Į	担当
番号	ŧ	黄 査 項 目	検査事項	指摘なし	要是正	既 存 不適格	検査者 番号
(1)		設置場所の周囲状 況	閉鎖の障害となる物品の放置並び に照明器具及び懸垂物等の状況				
(2)		駆動装置	ローラチェーンの劣化及び損傷の 状況				
(3)		カーテン部	耐火クロス及び座板の劣化及び損 傷の状況				
(4)		カーテン部	吊り元の劣化及び損傷並びに固定 の状況				
(5)	耐火ク	ケース	劣化及び損傷の状況				
(6)	ロスス	まぐさ及びガイド レール	劣化及び損傷の状況				
(7)	ン	And the J. Wellin	危害防止用連動中継器の配線の状 況				
(8)		危害防止装置 (人の通行の用に	危害防止装置用予備電源の劣化及 び損傷の状況				
(9)		供する部分に設け る耐火クロススク リーンに係るもの	危害防止装置用予備電源の容量の 状況				
(10)		に限る。)	座板感知部の劣化及び損傷並びに 作動の状況				
(11)			作動の状況				
(12)		煙感知器、熱煙複	設置位置				
(13)		合式感知器及び熱 感知器	感知の状況				
(14)			スイッチ類及び表示灯の状況				
(15)	3-4-161-146	連動制御器 連動機構用予備電	結線接続の状況				
(16)	連動機		接地の状況				
(17)	構		予備電源への切り替えの状況				
(18)			劣化及び損傷の状況				
(19)		源	容量の状況				
(20)		自動閉鎖装置	設置の状況				
(21)		手動閉鎖装置	設置の状況				
(22)	総合的な	な作動の状況	耐火クロススクリーンの閉鎖の状 況				
(23)			防火区画の形成の状況				
上記以	以外の検3	<b>上項目</b>					
特記事	耳項						
番号		検査項目	指摘の具体的内容等				女善(予 記)年月
						-	
						-	

- この書類は、建築物ごとに作成してください。
- ② 記入欄が不足する場合は、枠を拡大、行を追加して記入するか、別紙に必要な事項を記入して添えてください。
- ③ 「当該検査に関与した検査者」欄は、建築基準法施行規則別記第36の8様式第二面4欄に記入した検査者について記入し、「検査者番号」欄に検査者を特定できる番号、記号等を記入してください。当該防火設備の検査を行った検査者が1人の場合は記入不要です。
- ④ 該当しない検査項目がある場合は、その「検査結果」欄及び「担当検査者番号」欄に「-」を記入してください。
- ⑤ 「検査結果」欄は、別表(い)欄に掲げる各検査項目ごとに記入してください。
- ⑥ 「検査結果」欄のうち「要是正」欄は、別表(い)欄に掲げる検査項目について同表(ろ)欄に掲げる検査事項のいずれかが同表(に)欄に掲げる判定基準に該当する場合に○印を記入してください。
- ⑦ 「検査結果」欄のうち「指摘なし」欄は、⑥に該当しない場合に○印を記入してください。
- ⑧ 「既存不適格」欄は、「要是正」欄に〇印を記入した場合で、建築基準法第 3条第2項の規定の適用を受けているものであることが確認されたときは、〇 印を記入してください。
- ⑨ 「担当検査者番号」欄は、「検査に関与した検査者」欄で記入した番号、記号等を記入してください。ただし、当該防火設備の検査を行った検査者が1人の場合は、記入不要です。
- ① 「上記以外の検査項目」欄は、第2第2項の規定により特定行政庁が検査項目等を付加している場合に、当該検査項目等を追加し、⑤から⑨までに準じて検査結果等を記入してください。また、第2第3項に規定する認定検査項目等が定められている場合に、当該認定検査項目等を追加し、⑤から⑨までに準じて検査結果等を記入してください。
- ① 「特記事項」は、検査の結果、要是正の指摘があった場合のほか、指摘がない場合にあっても特記すべき事項がある場合に、該当する検査項目の番号、検査項目を記入し、「指摘の具体的内容等」欄に指摘又は特記すべき事項の具体的内容を記入するとともに、改善済みの場合及び改善策が明らかになっている場合は「改善策の具体的内容等」欄にその内容を記入し、改善した場合は「改善(予定)年月」欄に当該年月を記入し、改善予定年月が明らかになっている場合は「改善(予定)年月」欄に当該年月を()書きで記入してください。
- ② 各階平面図を別添1の様式に従い添付し、耐火クロススクリーンの設置されている箇所及び指摘(特記すべき事項を含む)のあった箇所を明記してください。なお、別添1の様式は別記第一号、別記第二号又は別記第四号の各々の別添1の様式に記載すべき事項を合わせて記載することとして構いません。
- ③ 要是正とされた検査項目(既存不適格の場合を除く。)については、要是正とされた部分を撮影した写真を別添2の様式に従い添付するとともに、撮影した写真の位置を別添1の様式に明記してください。

# 別記第四号 (A4)

・/ **検査結果表** (ドレンチャーその他の水幕を形成する防火設備)

		氏 名	検査者番号
当該検査に関与	代表となる検査者		
した検査者	その他の検査者		

				検査結果			40.1/
番号		A = = = =	A++	<sub>比拉</sub> 要是正			担当
番号	4:	食査項目	検査事項	指摘なし		既 存 不適格	検査者 番号
(1)		設置場所の周囲状 況	作動の障害となる物品の放置並び に照明器具及び懸垂物等の状況				
(2)		散水ヘッド	散水ヘッドの設置の状況				
(3)		開閉弁	開閉弁の状況				
(4)		排水設備	排水の状況				
(5)		水源	貯水槽の劣化及び損傷、水質並び に水量の状況				
(6)			給水装置の状況				
(7)	ドレン		ポンプ制御盤のスイッチ類及び表 示灯の状況				
(8)	チャー		結線接続の状況				
(9)	等		接地の状況				
(10)			ポンプ及び電動機の状況				
(11)		加圧送水装置	加圧送水装置用予備電源への切り 替えの状況				
(12)			加圧送水装置用予備電源の劣化及 び損傷の状況				
(13)			加圧送水装置用予備電源の容量の 状況				
(14)			圧力計、呼水槽、起動用圧力スイ ッチ等の付属装置の状況				
(15)		煙感知器、熱煙複	設置位置				
(16)		合式感知器及び熱 感知器	感知の状況				
(17)			スイッチ類及び表示灯の状況				
(18)	連動機		結線接続の状況				
(19)	構		接地の状況		├		
(20)			予備電源への切り替えの状況		├	-	├
(21) (22)		連動機構用予備電 源			_	_	_
(23)		自動作動装置	容量の状況 設置の状況		<del>                                     </del>	-	<del></del>
(24)		手動作動装置	設置の状況		<del>                                     </del>	_	-
(25)			ドレンチャー等の作動の状況		-		_
(26)	総合的な	な作動の状況	防火区画の形成の状況		<del>                                     </del>		_
	リ外の検3	<b>- 項目</b>	507 ( ) 7570( ) 7650				
特記事	項						
番号		検査項目	指摘の具体的内容等			č 2	改善(予 定)年月
						-+	

- この書類は、建築物ごとに作成してください。
- ② 記入欄が不足する場合は、枠を拡大、行を追加して記入するか、別紙に必要な事項を記入して添えてください。
- ③ 「当該検査に関与した検査者」欄は、建築基準法施行規則別記第36の8様式第二面4欄に記入した検査者について記入し、「検査者番号」欄に検査者を特定できる番号、記号等を記入してください。当該防火設備の検査を行った検査者が1人の場合は、その他の検査者欄は記入不要です。
- ④ 該当しない検査項目がある場合は、その「検査結果」欄及び「担当検査者番号」欄に「-」を記入してください。
- ⑤ 「検査結果」欄は、別表(い)欄に掲げる各検査項目ごとに記入してくださ 、い。
- ⑥ 「検査結果」欄のうち「要是正」欄は、別表(い)欄に掲げる検査項目について同表(ろ)欄に掲げる検査事項のいずれかが同表(に)欄に掲げる判定基準に該当する場合に○印を記入してください。
- ⑦ 「検査結果」欄のうち「指摘なし」欄は、⑥に該当しない場合に○印を記入 してください。
- ⑧ 「既存不適格」欄は、「要是正」欄に〇印を記入した場合で、建築基準法第 3条第2項の規定の適用を受けているものであることが確認されたときは、〇 印を記入してください。
- ⑨ 「担当検査者番号」欄は、「検査に関与した検査者」欄で記入した番号、記号等を記入してください。ただし、当該防火設備の検査を行った検査者が1人の場合は、記入不要です。
- ⑩ 「上記以外の検査項目」欄は、第2第2項の規定により特定行政庁が検査項目等を付加している場合に、当該検査項目等を追加し、⑤から⑨までに準じて検査結果等を記入してください。また、第2第3項に規定する認定検査項目等が定められている場合に、当該認定検査項目等を追加し、⑤から⑨までに準じて検査結果等を記入してください。
- ① 「特記事項」は、検査の結果、要是正の指摘があった場合のほか、指摘がない場合にあっても特記すべき事項がある場合に、該当する検査項目の番号、検査項目を記入し、「指摘の具体的内容等」欄に指摘又は特記すべき事項の具体的内容を記入するとともに、改善済みの場合及び改善策が明らかになっている場合は「改善策の具体的内容等」欄にその内容を記入し、改善した場合は「改善(予定)年月」欄に当該年月を記入し、改善予定年月が明らかになっている場合は「改善(予定)年月」欄に当該年月を()書きで記入してください。
- ② 各階平面図を別添1の様式に従い添付し、ドレンチャーその他の水幕を形成する防火設備の設置されている箇所及び指摘(特記すべき事項を含む)のあった箇所を明記してください。なお、別添1の様式は別記第一号、別記第二号又は別記第三号の各々の別添1の様式に記載すべき事項を合わせて記載することとして構いません。
- ③ 要是正とされた検査項目(既存不適格の場合を除く。)については、要是正とされた部分を撮影した写真を別添2の様式に従い添付するとともに、撮影した写真の位置を別添1の様式に明記してください。

≨1様式(A 3)	検	査	結	果	<b>X</b>
	,,,,,				
生)各階平面図を添付し、検査の対象となる防火設備の	の設置されている箇所及	び指摘	(特託	けべき	き事項を含む)のあった箇所を明記すること。

# 別添2様式(A4)

## 関係写真

部位	番号	検査項目		検査結果		
티게포				□要是正	□その他	
			特記事項			
	写真	貼付				

部位	番号	検査項目		検査	結果
티치자				□要是正	□その他
			特記事項		
	写真	貼付			

- ① この書類は、検査の結果で「要是正」とされた項目のうち、「既存不適格」ではない項目について作成してください。また、「既存不適格」及び「指摘なし」の項目についても、特配すべき事項があれば、必要に応じて作成してください。「要是正」の項目がない場合は、この書類は省略しても構いません。
- ② 記入欄が不足する場合は、枠を拡大、行を追加して記入するか、別紙に必要な事項を記入して添えてください。
- ② 「部位」欄の「番号」、「検査項目」は、それぞれ別配機式の番号、検査項目に対応したものを配入してください。
- ④ 「検査結果」欄は、検査の結果、要是正の指摘があった場合は「要是正」のチェックボックスに「レ」マークを入れ、それ以外の場合で特記すべき事項がある場合は「その他」のチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
- ⑤ 写真は、当該部位の外観の状況が確認できるように撮影したものを添付してください。